

島根県で初確認されたチャイロスズメバチについて

皆木 宏明*

First record of *Vespa dybowskii* Andre (Vespoidea, Vespidae) found from Shimane Prefecture

Kohmei Minagi

2017年に島根県雲南市大東町において、チャイロスズメバチ *Vespa dybowskii* (写真1) が採集されたので報告する。本種は島根県では初記録となる。

採集場所は雲南市大東町飯田にある民家である。民家の住人である発見者が、自宅の屋根裏で中に入り込んだ哺乳類を追出すため市販の燻煙式殺虫剤を使用し、後日屋根裏を確認したところ、見慣れないハチの死骸を見つけたため採集し、三瓶自然館に持ち込まれた。

筆者が死骸を確認したところ、全身が茶褐色で目立った斑紋がないことからチャイロスズメバチであることがわかった。発見者によると見つけた死骸はワーカー1匹で、他の個体やそれらしい巣などは確認していないとのことだった。

採集記録

採集日 2017年7月5日
採集種 チャイロスズメバチ 1 ex.
学名 *Vespa dybowskii*
採集地 島根県雲南市大東町飯田
採集者 岩田のりこ

チャイロスズメバチはハチ目スズメバチ科の仲間であり、国内では北海道、本州に分布する。頭胸部が赤褐色、膨腹部が黒褐色の体色はスズメバチ属の中でも独特である。体長はワーカー20mm前後、女王バチ30mmほどの中型のスズメバチで、もっぱら他の昆虫類やクモ類をエサとして捕食する。営巣場所は樹洞、屋根裏、土中などの閉鎖空間を好む。また他のスズメバチと異なり、同じスズメバチ科の仲間であるモンズメバチ *Vespa crabro* やキイロスズメバチ *Vespa simillima* の巣を乗っ取る社会寄生性の習性を持つ (松浦, 1988 ;

小野, 1997)。

かつては本州中部、関東以東の山地に分布するとされたが (松浦, 1988), 2000年以降西日本での記録が相次いでおり、近畿地方や中国地方で営巣や個体が確認されている (佐藤, 2006 ; 加藤ら, 2009)。これまで島根県内では本種は未確認だったが、島根県との県境に近い鳥取県西伯郡大山町大山 (野津, 2010)、鳥取県日野郡日南町砥波 (野津, 2016) や、広島県山県郡北広島町での2例 (坂本, 2014)、広島県庄原市西条町 (皆木, 2015) で近年記録されており、県内でも生息する可能性が高いと考えられていた。

現在までの国内の分布西限は2008年に確認された広島県山県郡北広島町にある臥龍山となっており (坂本, 2014)、ここではアカマツ *Pinus densiflora* の樹洞内で営巣していたと思われる個体群が確認されている。島根県内でも今後、他の地域や中国山地に近い地



写真1 採集されたチャイロスズメバチ

* 島根県立三瓶自然館, 〒694-0003 島根県大田市三瓶町多根 1121-8

The Shimane Nature Museum of Mt. Sanbe (Sahimel), 1121-8 Tane, Sanbe-cho, Ohda, Shimane, 694-0003, Japan

域で個体や営巣が確認される可能性があるだろう。

また西日本での本種の確認地点は比較的標高の高い地点が多いが、今回発見された場所が標高70mほどの低標高地であることも興味深い記録であると思われる。

なお、今回確認した個体は標本化し三瓶自然館で保管している。

引用文献

加藤 学・片岡博行・岩井貴志・瀬島翔馬・奥島雄一(2009) 岡山県でのチャイロスズメバチの分布と生態記録—西日本の分布情報を含めて—。倉敷市立自然史博物館研究報告 24.P.35-42

松浦 誠(1988)スズメバチはなぜ刺すか。北海道大学図書刊行会。291pp.

皆木宏明(2015) 広島県庄原市で採集したチャイロスズメバチの記録。島根県立三瓶自然館研究報告第13号。71-72

野津幸夫(2010) 伯耆大山でチャイロスズメバチを撮影。ゆらぎあ№28:8-9.

野津幸夫(2016) チャイロスズメバチを日南町砥波で撮影。ゆらぎあ№34:16

小野正人(1997) スズメバチの化学。海游舎。174pp.

坂本 充(2014) 北広島町の昆虫類。北広島町の自然。北広島町教育委員会発行 P.353-500

佐藤隆士(2006) チャイロスズメバチの鳥取県からの記録。月刊むし(430)28-30.